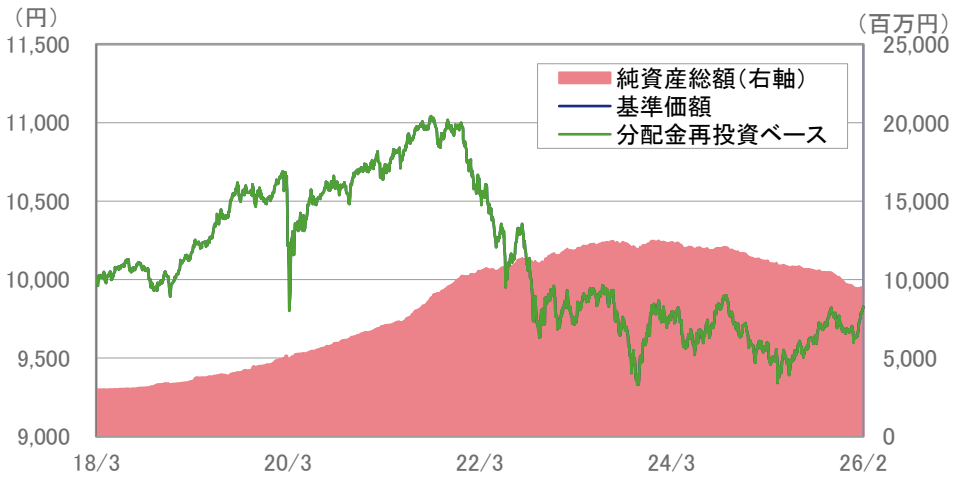
マンスリーレポート（計数のみの速報版を5営業日、コメント入りの最終版を10営業日を目途にリリースしています）

農林中金＜パートナーズ＞日米6資産分散ファンド（安定運用コース）（為替ヘッジあり）/【愛称：コア6 エバー為替ヘッジあり】

（基準日：2026年2月27日） 販売用資料

設定日：2018年3月20日　償還日：無限　決算日：11月15日（休業日の場合は翌営業日）　追加型投信／内外／資産複合

【1】 基準価額・純資産総額の設定来推移



※1 分配金再投資ベースは分配金（課税前）を再投資したものとして計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。
※2 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

【2】 設定来の運用実績

	基準価額（分配金再投資）	
	（円）	騰落率（%）
当月末	9,826	-
過去1ヵ月	9,641	1.92
過去3ヵ月	9,763	0.65
過去6ヵ月	9,646	1.87
過去1年	9,577	2.60
過去3年	9,752	0.76
設定日来	10,000	-1.74

※1 基準価額騰落率（分配金再投資）は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金（課税前）を再投資した場合の騰落率です。また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。
※2 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

【3】 基準価額と純資産総額

	当月末	前月末	前月末比
基準価額（円）	9,826	9,641	＋185
純資産総額（百万円）	9,489	9,455	＋33

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

	基準価額（円）	日付
設定来高値	11,042	2021年9月7日
設定来安値	9,332	2023年10月26日

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。
※2 設定来高値及び設定来安値は分配落ち後の基準価額で、該当した日付が複数日ある場合には、その初日を表示しております。

【4】 分配実績

決算年月日	分配金（課税前）（円）
2025/11/17	0
2024/11/15	0
2023/11/15	0
2022/11/15	0
2021/11/15	0
2020/11/16	0
設定来合計	0

※ 1万口当たりの実績です。

【5】 運用資産構成比率

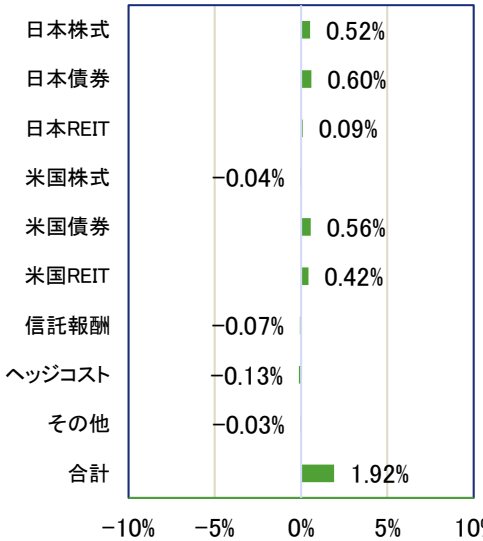
	ファンド	基本配分比率	差異
日本株式	4.9%	5.0%	-0.1%
日本債券	40.1%	40.0%	0.1%
日本REIT	4.9%	5.0%	-0.1%
米国株式	4.9%	5.0%	-0.1%
米国債券	40.3%	40.0%	0.3%
米国REIT	5.0%	5.0%	-0.0%
合計	100.0%	100.0%	-

※ 比率は対組入マザーファンド評価額比です。

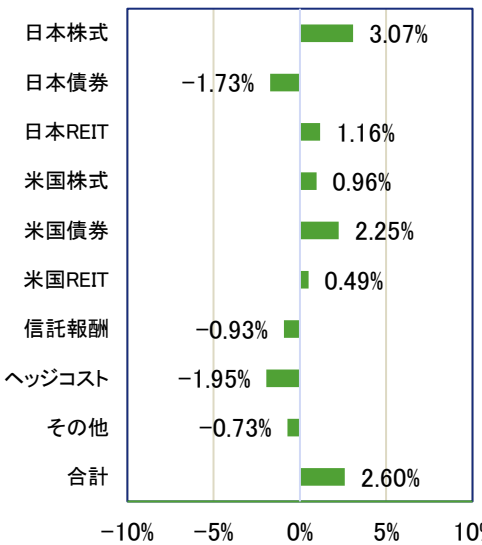
【参考】各投資資産別の騰落率

	基本配分比率	過去1ヵ月	過去1年
日本株式	5.0%	10.4%	61.4%
日本債券	40.0%	1.5%	-4.3%
日本REIT	5.0%	1.8%	23.3%
米国株式	5.0%	-0.8%	19.1%
米国債券	40.0%	1.4%	5.6%
米国REIT	5.0%	8.4%	9.9%

寄与度過去1ヵ月



寄与度過去1年



※寄与度は、基準価額の変動に与えた影響を理解していただくために作成した概算値であり、実際の値とは異なる場合があります。また、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、寄与度の算出にあたっては、ファンドの日次構成比率ではなく、基本配分比率を使って簡易的に計算を行っています。各投資資産別の騰落率および寄与度は全て現地通貨ベースの参考値です。ヘッジコストは市場の月次データによる計算値であり、実際の取引による数値とは異なります。その他は各資産等を寄与度分解した際の残差です。相場や組入資産の状況によっては、残差も大きくなる場合があります。

■後掲の「主なリスクと費用」および「留意事項」を必ずお読み下さい。

農林中金＜パートナーズ＞日米6資産分散ファンド（資産形成コース）（為替ヘッジあり）/【愛称：コア6 シード為替ヘッジあり】

（基準日：2026年2月27日） 販売用資料

設定日：2018年3月20日　償還日：無限　決算日：11月15日（休業日の場合は翌営業日）　追加型投信／内外／資産複合

【1】 基準価額・純資産総額の設定来推移

※1 分配金再投資ベースは分配金（課税前）を再投資したものとして計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。
※2 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

【2】 設定来の運用実績

	基準価額（分配金再投資）	
	（円）	騰落率（%）
当月末	14,798	-
過去1ヵ月	14,291	3.55
過去3ヵ月	14,240	3.92
過去6ヵ月	13,609	8.74
過去1年	12,862	15.05
過去3年	11,716	26.31
設定日来	10,000	47.98

※1 基準価額騰落率（分配金再投資）は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金（課税前）を再投資した場合の騰落率です。また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。
※2 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

【3】 基準価額と純資産総額

	当月末	前月末	前月末比
基準価額（円）	14,798	14,291	＋507
純資産総額（百万円）	35,670	34,470	＋1,200

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

	基準価額（円）	日付
設定来高値	14,819	2026年2月26日
設定来安値	8,735	2020年3月19日

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。
※2 設定来高値及び設定来安値は分配落ち後の基準価額で、該当した日付が複数日ある場合には、その初日を表示しております。

【4】 分配実績

決算年月日	分配金（課税前）（円）
2025/11/17	0
2024/11/15	0
2023/11/15	0
2022/11/15	0
2021/11/15	0
2020/11/16	0
設定来合計	0

※ 1万口当たりの実績です。

【5】 運用資産構成比率

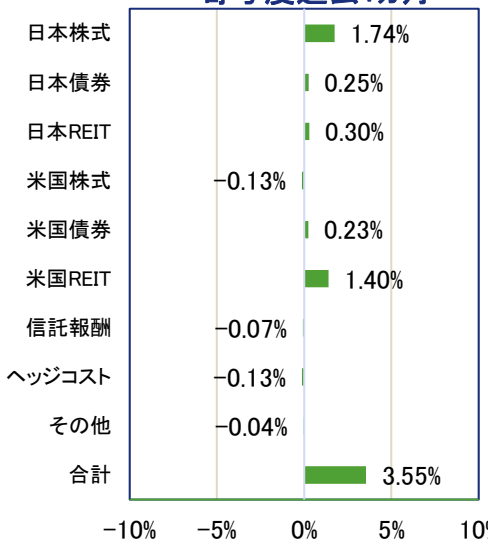
	ファンド	基本配分比率	差異
日本株式	16.8%	16.7%	0.1%
日本債券	16.5%	16.7%	-0.2%
日本REIT	16.6%	16.7%	-0.1%
米国株式	16.6%	16.7%	-0.1%
米国債券	16.6%	16.7%	-0.1%
米国REIT	16.9%	16.7%	0.2%
合計	100.0%	100.0%	-

※ 比率は対組入マザーファンド評価額比です。

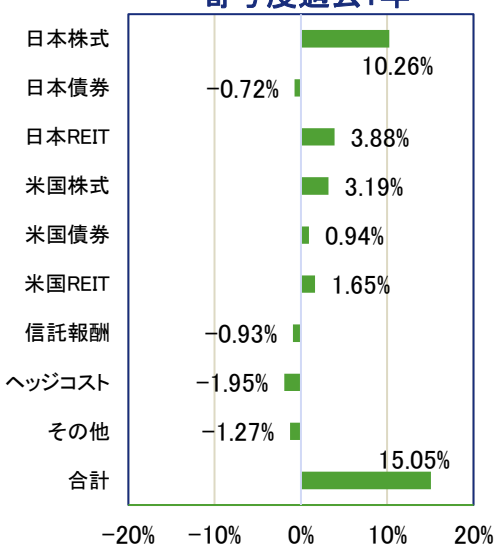
【参考】各投資資産別の騰落率

	基本配分比率	過去1ヵ月	過去1年
日本株式	16.7%	10.4%	61.4%
日本債券	16.7%	1.5%	-4.3%
日本REIT	16.7%	1.8%	23.3%
米国株式	16.7%	-0.8%	19.1%
米国債券	16.7%	1.4%	5.6%
米国REIT	16.7%	8.4%	9.9%

寄与度過去1ヵ月



寄与度過去1年



※寄与度は、基準価額の変動に与えた影響を理解していただくために作成した概算値であり、実際の値とは異なる場合があります。また、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、寄与度の算出にあたっては、ファンドの日次構成比率ではなく、基本配分比率を使って簡易的に計算を行っています。各投資資産別の騰落率および寄与度は全て現地通貨ベースの参考値です。ヘッジコストは市場の月次データによる計算値であり、実際の取引による数値とは異なります。その他は各資産等を寄与度分解した際の残差です。相場や組入資産の状況によっては、残差も大きくなる場合があります。

■後掲の「主なリスクと費用」および「留意事項」を必ずお読み下さい。

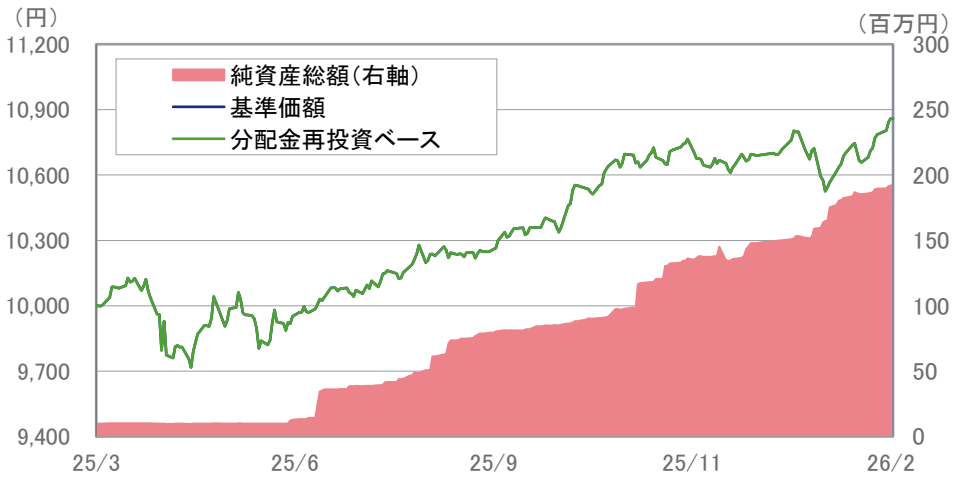
マンスリーレポート（計数のみの速報版を5営業日、コメント入りの最終版を10営業日を目途にリリースしています）

農林中金＜パートナーズ＞日米6資産分散ファンド（安定運用コース）（為替ヘッジなし）/【愛称：コア6 エバー為替ヘッジなし】

（基準日：2026年2月27日） 販売用資料

設定日：2025年3月11日　償還日：無限　決算日：11月15日（休業日の場合は翌営業日）　追加型投信／内外／資産複合

【1】 基準価額・純資産総額の設定来推移



※1 分配金再投資ベースは分配金（課税前）を再投資したものとして計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。
※2 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

【2】 設定来の運用実績

	基準価額（分配金再投資）	
	（円）	騰落率（%）
当月末	10,860	－
過去1ヵ月	10,567	2.77
過去3ヵ月	10,765	0.88
過去6ヵ月	10,248	5.97
過去1年	－	－
過去3年	－	－
設定日来	10,000	8.60

※1 基準価額騰落率（分配金再投資）は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金（課税前）を再投資した場合の騰落率です。また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。
※2 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

【3】 基準価額と純資産総額

	当月末	前月末	前月末比
基準価額（円）	10,860	10,567	＋293
純資産総額（百万円）	192	175	＋17

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

	基準価額（円）	日付
設定来高値	10,860	2026年2月26日
設定来安値	9,717	2025年4月22日

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。
※2 設定来高値及び設定来安値は分配落ち後の基準価額で、該当した日付が複数日ある場合には、その初日を表示しております。

【4】 分配実績

決算年月日	分配金（課税前）（円）
2025/11/17	0
－	－
－	－
－	－
－	－
－	－
設定来合計	0

※ 1万口当たりの実績です。

【5】 運用資産構成比率

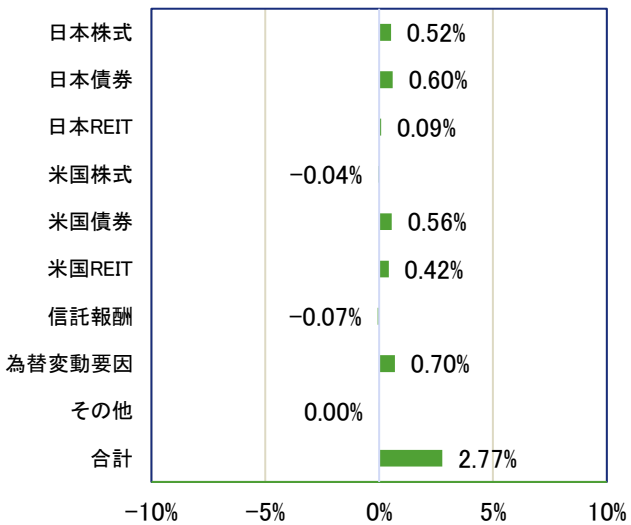
	ファンド	基本配分比率	差異
日本株式	5.2%	5.0%	0.2%
日本債券	39.9%	40.0%	−0.1%
日本REIT	4.9%	5.0%	−0.1%
米国株式	5.0%	5.0%	−0.0%
米国債券	40.0%	40.0%	0.0%
米国REIT	5.1%	5.0%	0.1%
合計	100.0%	100.0%	－

※ 比率は対組入マザーファンド評価額比です。

【参考】各投資資産別の騰落率

	基本配分比率	過去1ヵ月
日本株式	5.0%	10.4%
日本債券	40.0%	1.5%
日本REIT	5.0%	1.8%
米国株式	5.0%	−0.8%
米国債券	40.0%	1.4%
米国REIT	5.0%	8.4%

寄与度過去1ヵ月



※寄与度は、基準価額の変動に与えた影響を理解していただくために作成した概算値であり、実際の値とは異なる場合があります。また、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、寄与度の算出にあたっては、ファンドの日次構成比率ではなく、基本配分比率を使って簡易的に計算を行っています。各投資資産別の騰落率および寄与度は全て現地通貨ベースの参考値です。為替変動要因は月末のドル円レートによる計算値であり、実際にファンドで生じている為替変動に伴う損益とは異なります。その他は各資産等を寄与度分解した際の残差です。相場や組入資産の状況によっては、残差も大きくなる場合があります。

■後掲の「主なリスクと費用」および「留意事項」を必ずお読み下さい。

マンスリーレポート（計数のみの速報版を5営業日、コメント入りの最終版を10営業日を目途にリリースしています）

農林中金＜パートナーズ＞日米6資産分散ファンド（資産形成コース）（為替ヘッジなし）/【愛称：コア6 シード為替ヘッジなし】

（基準日：2026年2月27日） 販売用資料

設定日：2025年3月11日　償還日：無限　決算日：11月15日（休業日の場合は翌営業日）　追加型投信／内外／資産複合

【1】 基準価額・純資産総額の設定来推移

※1 分配金再投資ベースは分配金（課税前）を再投資したものとして計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。
※2 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

【2】 設定来の運用実績

	基準価額（分配金再投資）	
	（円）	騰落率（%）
当月末	12,306	－
過去1ヵ月	11,788	4.39
過去3ヵ月	11,818	4.13
過去6ヵ月	10,885	13.05
過去1年	－	－
過去3年	－	－
設定日来	10,000	23.06

※1 基準価額騰落率（分配金再投資）は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金（課税前）を再投資した場合の騰落率です。また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。
※2 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

【3】 基準価額と純資産総額

	当月末	前月末	前月末比
基準価額（円）	12,306	11,788	＋518
純資産総額（百万円）	2,180	1,861	＋319

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

	基準価額（円）	日付
設定来高値	12,336	2026年2月26日
設定来安値	9,370	2025年4月9日

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。
※2 設定来高値及び設定来安値は分配落ち後の基準価額で、該当した日付が複数日ある場合には、その初日を表示しております。

【4】 分配実績

決算年月日	分配金（課税前）（円）
2025/11/17	0
－	－
－	－
－	－
－	－
－	－
設定来合計	0

※ 1万口当たりの実績です。

【5】 運用資産構成比率

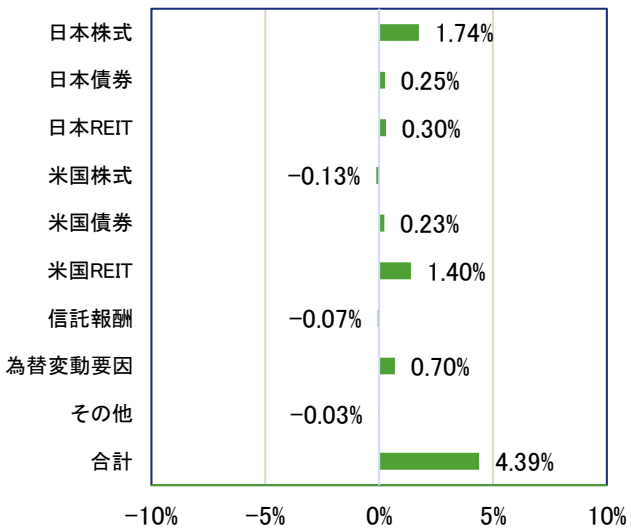
	ファンド	基本配分比率	差異
日本株式	16.9%	16.7%	0.2%
日本債券	16.6%	16.7%	−0.1%
日本REIT	16.4%	16.7%	−0.3%
米国株式	16.7%	16.7%	−0.0%
米国債券	16.6%	16.7%	−0.1%
米国REIT	16.7%	16.7%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	－

※ 比率は対組入マザーファンド評価額比です。

【参考】各投資資産別の騰落率

	基本配分比率	過去1ヵ月
日本株式	16.7%	10.4%
日本債券	16.7%	1.5%
日本REIT	16.7%	1.8%
米国株式	16.7%	−0.8%
米国債券	16.7%	1.4%
米国REIT	16.7%	8.4%

寄与度過去1ヵ月



※寄与度は、基準価額の変動に与えた影響を理解していただくために作成した概算値であり、実際の値とは異なる場合があります。また、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、寄与度の算出にあたっては、ファンドの日次構成比率ではなく、基本配分比率を使って簡易的に計算を行っています。各投資資産別の騰落率および寄与度は全て現地通貨ベースの参考値です。為替変動要因は月末のドル円レートによる計算値であり、実際にファンドで生じている為替変動に伴う損益とは異なります。その他は各資産等を寄与度分解した際の残差です。相場や組入資産の状況によっては、残差も大きくなる場合があります。

■後掲の「主なリスクと費用」および「留意事項」を必ずお読み下さい。

＜参考＞各資産の市場動向 【日本】

【日本株式】

■ 日経平均株価

[2月末のコメント]

日経平均株価は、前月比10.37%上昇しました。月前半は、AI脅威論によるリスクオフムードの高まりを背景に株価は下落する場面もあったものの、予想対比堅調な本邦企業決算や、衆議院選挙における自民党の大勝を受けた政権安定・政策遂行能力向上への期待を背景に上昇しました。月後半は、中東情勢を巡る地政学リスクの高まりを背景に株価は下落する場面もあったものの、円安進行や過度なAI脅威論の巻き戻しを背景に上昇し、月間でも上昇しました。

【日本債券】

■ 日本10年国債利回り

[2月末のコメント]

国内長期金利は、0.13%低下しました。月前半は、衆議院選挙における自民党の大勝を受けて過度な財政拡張懸念が後退したことを背景に国内長期金利は低下しました。月後半は、日銀審議委員の次期候補がリフレーション政策を支持すると見られる人物であったことから利上げの遅れによるインフレ進展懸念が高まったことを背景に国内長期金利は上昇する場面もあったものの、米国長期金利の低下や流動性供給入札の区分見直しに伴う超長期債の需給改善期待を背景に低下し、月間でも低下しました。

【日本REIT】

■ 東証REIT指数（配当込み）

[2月末のコメント]

東証REIT指数（配当込み）は、前月比1.79%上昇しました。月前半は、衆議院選挙における自民党の大勝を受けて過度な財政拡張懸念が後退したものの、引き続き長期金利が過去対比で高水準に位置する中、指数は横ばい圏で推移しました。月後半は、予想対比堅調な大型REIT銘柄の決算や長期金利の低下を背景に指数は上昇し、月間でも上昇しました。

[今後の市場見通し]＜日本＞

■株式

日本株式については、インバウンド需要や賃上げによる内需回復が株価を下支えすると見込まれるものの、円高が進展するリスクや米国の関税政策が企業業績に与える影響に加え、海外投資家の資金フローの動向には留意が必要です。また、依然グローバルに見て緩和的な金融環境や東証のPBR（株価純資産倍率）改善要請を受けた企業の株主還元姿勢強化の広がりも株価の支援材料になる一方、日中対立の動向や日米の政治的不透明感に加え、株価急騰に伴う割高感も意識されることから、日本株は横ばい圏での推移を見込みます。

■債券

国内長期金利については、物価目標近傍のインフレ水準が継続する中で、市場は日銀の緩やかな利上げを織り込み続けると想定されることから、横ばい圏での推移を見込みます。国内超長期金利については、過去対比で高水準に位置しているものの、財政動向を巡る不透明感は依然として強く、26年度の骨太の方針や補正予算を確認するまで市場の警戒感がくすぶり続ける展開を想定することから、上昇を見込みます。

■REIT

J-REIT市場は、資産構成比の高いオフィス物件について、賃料・空室率ともに改善基調が継続しています。住宅やホテルについては、首都圏の人口増加やインバウンド需要の増加により好調な市場環境が継続することを想定します。物流については、首都圏では供給量の一服感が見られるものの近畿圏では高水準な供給が維持されているため需給環境の悪化には留意が必要ですが、旺盛な需要を背景に堅調な市場環境が継続することを見込みます。バリュエーション面では、国内長期金利の上昇によるアセットクラスとしての相対的な魅力度の低下や、借入コストの上昇による1株当たり配当への悪影響が懸念されることが重石になる一方、割安なNAV倍率（投資口価格÷1口当たり純資産価値）が下支えすると想定しています。かかる中、J-REITは横ばい圏での推移を見込みます。

■後掲の「主なリスクと費用」および「留意事項」を必ずお読み下さい。

＜参考＞各資産の市場動向 【米国】

【米国株式】

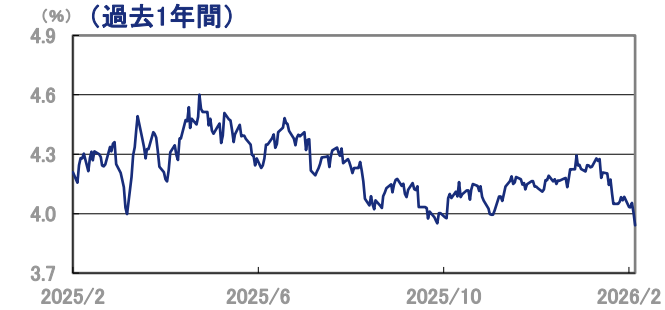
■ S＆P500指数（米ドルベース）

[2月末のコメント]

S&P500指数は、前月比0.87%下落しました。月前半は、AI脅威論を背景とするリスクオフムードの高まりや、大手ハイテク企業によるAI関連の過剰投資懸念を背景に株価は下落しました。月後半は、AI脅威論を背景とするリスクオフムードの継続や、中東情勢を巡る地政学リスクの高まりを背景に株価は下落する場面もあったものの、堅調なAIデータセンター向けの半導体メモリ需要を背景とした半導体関連株選好や、金利低下の恩恵を受ける公益株等への物色ローテーションを受けて上昇し、月間では下落しました。

【米国債券】

■ 米国10年国債利回り



[2月末のコメント]

米国長期金利は、0.30%低下しました。月前半は、予想対比軟調な雇用関連指標や物価指標を受けた利下げ期待の進展に加え、AI脅威論（AIによる業務代替や企業業績悪化に対する懸念）を背景とするリスクオフムードの高まりを背景に米国長期金利は低下しました。月後半は、AI脅威論を背景とするリスクオフムードの継続や、中東情勢を巡る地政学リスクの高まりを背景に米国長期金利は低下し、月間でも低下しました。

【米国REIT】

■ S&P米国REIT指数（配当込み、米ドルベース）

[2月末のコメント]

S&P米国REIT指数（配当込み）は、前月比7.93%上昇しました。月前半は、長期金利の低下やデータセンター関連の堅調な不動産需要を背景に、指数は上昇しました。月後半は、長期金利の低下が継続したことを背景に指数は上昇し、月間でも上昇しました。

[今後の市場見通し]＜米国＞

■株式

米国株式については、大手ハイテク企業中心に堅調な企業業績が見込まれるほか、利下げの進展に加え、自社株買いによるEPS（1株当たり利益）の下支えやM&Aを背景とした押し上げが期待できることから、底堅く推移する見込みです。但し、雇用環境の悪化や個人消費の減速に加えて、トランプ政権による関税賦課等の政策を発端としたコスト上昇圧力を背景に、業績見通しが下方修正されるリスクには留意が必要なほか、トランプ政権の米国第一主義を徹底した対外政策を発端に、地政学リスクが高まる展開も警戒されます。またAIを巡っては、大手ハイテク企業による過剰投資懸念やAI脅威論が一時的に株価を下押しする展開が想定されます。かかる中、米国株は横ばい圏での推移を見込みます。

■債券

米国長期金利については、26年初にかけての関税影響を受けた家計の消費活動・労働市場の減速や、米連邦準備制度理事会（以下「FRB」という）の新議長を巡る利下げ期待の高まりは金利低下圧力となる一方で、26年以降の経済回復期待や中間選挙に向けた追加財政政策期待に加え、利付債増発を巡る思惑を背景とした債券需給悪化が金利上昇圧力となると想定することから、上昇を見込みます。

■REIT

米国REIT市場は、eコマースの一段の進展や5Gへの設備投資継続、在宅勤務の定着などを要因として用途別の成長率の差が拡大することが想定されます。指数については、不動産市況の低迷が懸念されるものの、米国長期金利低下に伴うイールド・スプレッド（長期金利対比の分配利回り）で見た投資妙味の改善や割安なNAV倍率を背景とした下支えが期待されることから、米国REITは横ばい圏での推移を見込みます。

■後掲の「主なリスクと費用」および「留意事項」を必ずお読み下さい。

農林中金＜パートナーズ＞日米6資産分散ファンド（基準日：2026年2月27日）

（安定運用コース）（為替ヘッジあり）/【愛称：コア6 エバー為替ヘッジあり】、（資産形成コース）（為替ヘッジあり）/【愛称：コア6 シード為替ヘッジあり】
（安定運用コース）（為替ヘッジなし）/【愛称：コア6 エバー為替ヘッジなし】、（資産形成コース）（為替ヘッジなし）/【愛称：コア6 シード為替ヘッジなし】

販売用資料

追加型投信／内外／資産複合

＜参考＞各資産の市場動向 【為替】

【ドル】

■ ドル/円

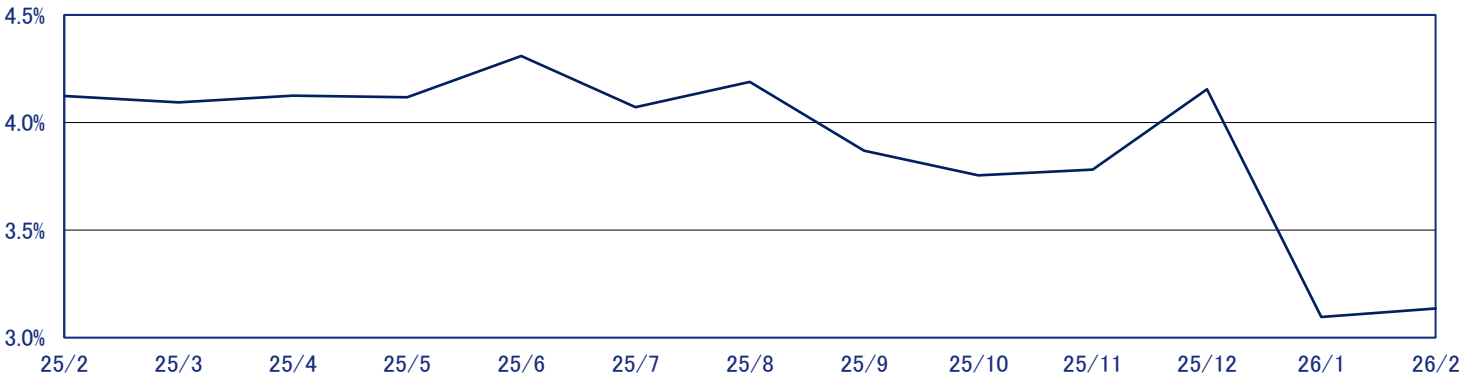
[2月末のコメント]

ドル／円は、前月比1.40%上昇し、円安・ドル高となりました。月前半は、衆議院選挙における自民党の大勝を受けた過度な財政拡張懸念の後退に加え、複数の政府高官による円安牽制発言やFRB利下げ期待の進展を背景に円高・ドル安となりました。月後半は、高市首相が日銀の早期追加利上げに対し難色を示したとの報道や、日銀審議委員の次期候補案がハト派的と捉えられたことを背景に円安・ドル高となり、月間でも円安・ドル高となりました。

[今後の市場見通し]

ドル／円は、日銀の利上げやFRBの利下げ進展に伴い金融政策格差の縮小が予想されるものの、本邦の財政拡張や緩和的な金融政策継続への思惑に加え、恒常的に円売り優勢とみられる円需給環境や26年央以降の米経済回復期待を背景に、円安・ドル高での推移を見込みます。

＜参考＞為替ヘッジコスト(ドル/円　1M)の推移



※1　グラフに示している為替ヘッジコストは参考として表示している月次データであり、実際の取引により生じるコストとは異なります。
※2　上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

商品の特色

■ 主として日本株式、日本債券、日本上場不動産投資信託（J-REIT）、米国株式、米国債券および米国上場不動産投資信託（REIT）に実質的に分散投資を行い、投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

■【コア6 エバー為替ヘッジあり】/【コア6 シード為替ヘッジあり】は、
実質組入外貨建資産については、為替変動リスクの低減を図るため、原則としてすべて対円での為替ヘッジを行います。

■【コア6 エバー為替ヘッジなし】/【コア6 シード為替ヘッジなし】は、
実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替相場の変動による影響を受けます。

■ お客様のそれぞれの資産運用の目的などに合わせて、2つのコース（安定運用コース、資産形成コース）から選択いただけます。
2つのコース（安定運用コース、資産形成コース）の各資産（資産別のマザーファンド）への基本配分比率は次のとおりとします。

	安定運用コース	資産形成コース
日本株式	5.0%	16.7%
日本債券	40.0%	16.7%
日本REIT	5.0%	16.7%
米国株式	5.0%	16.7%
米国債券	40.0%	16.7%
米国REIT	5.0%	16.7%

■ 各マザーファンドの特色について

マザーファンド	主要投資対象	主な投資態度
日経225 インデックス・マザーファンド	日本株式	日経平均トータルリターン・インデックスと連動する成果を目指します。
JA日本債券マザーファンド	日本債券	NOMURA－BPI総合を中長期的に上回る成果を目指します。
東証REIT インデックス・マザーファンド	日本REIT	東証REIT指数（配当込み）と連動する成果を目指します。
S&P500 インデックス・マザーファンド	米国株式	S＆P500指数（配当込み、当社円換算ベース）と連動する成果を目指します。
米国債券・マザーファンド	米国債券	FTSE米国国債インデックス（円ベース）を上回る成果を目指します。
S&P米国REIT インデックス・マザーファンド	米国REIT	S&P米国REIT指数（配当込み、当社円換算ベース）と連動する成果を目指します。

農林中金＜パートナーズ＞日米6資産分散ファンド

（安定運用コース）（為替ヘッジあり）/【愛称：コア6 エバー為替ヘッジあり】、（資産形成コース）（為替ヘッジあり）/【愛称：コア6 シード為替ヘッジあり】
（安定運用コース）（為替ヘッジなし）/【愛称：コア6 エバー為替ヘッジなし】、（資産形成コース）（為替ヘッジなし）/【愛称：コア6 シード為替ヘッジなし】

販売用資料

追加型投信／内外／資産複合

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	販売会社の指定する日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目から支払いを行います。
申込締切時間	原則として、購入・換金の申込みに係る、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。
申込受付不可日	ニューヨーク証券取引所の休場日またはニューヨークの銀行の休業日には、購入・換金の申込受付を行いません。（詳しくは、販売会社または委託会社にお問い合わせください。）
換金制限	信託財産の資産管理を円滑に行うために大口の換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止等により購入・換金の申込受付が中止または取消しとなることがあります。
信託期間	【コア6 エバー為替ヘッジあり】/【コア6 シード為替ヘッジあり】：無期限（設定日：2018年3月20日） 【コア6 エバー為替ヘッジなし】/【コア6 シード為替ヘッジなし】：無期限（設定日：2025年3月11日）
繰上償還	受益権の総口数が10億口を下回った場合などには、繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年11月15日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	毎年11月の決算時に分配を行います。販売会社との契約によっては、税引き後、無手数料で再投資が可能です。（年1回）
信託金の限度額	1兆円を限度とします。
公告	委託会社が投資者（受益者）に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	毎年11月の決算時及び償還後に交付運用報告書を作成し、販売会社より知れている投資者（受益者）に対して交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。なお、税制が改正された場合等には変更される場合があります。
スイッチング	「農林中金＜パートナーズ＞日米 6 資産分散ファンド」を構成する以下の各ファンド※の間でスイッチングが可能です。 ※農林中金＜パートナーズ＞日米 6 資産分散ファンド（安定運用コース）（為替ヘッジあり） 農林中金＜パートナーズ＞日米 6 資産分散ファンド（資産形成コース）（為替ヘッジあり） 農林中金＜パートナーズ＞日米 6 資産分散ファンド（安定運用コース）（為替ヘッジなし） 農林中金＜パートナーズ＞日米 6 資産分散ファンド（資産形成コース）（為替ヘッジなし） スイッチングとは、各ファンド間の乗換えのことで、ファンドの換金と同時に、当該換金代金をもって他のファンドの購入の申込みをする場合をいいます。 申込単位は、1口単位で、購入時手数料はかかりませんが、換金するファンドには、税金がかかります。 （販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合や一部または全部のスイッチングの取扱いを行わない場合があります。詳しくは販売会社までお問い合わせください。）

■ 委託会社、その他の関係法人

■委託会社 ： 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社（金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第372号
一般社団法人 投資信託協会会員／一般社団法人 日本投資顧問業協会会員）

信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。

■受託会社 ： 三菱UFJ信託銀行株式会社（再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）
追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。

■販売会社 ： 最終ページをご覧ください。
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

■後掲の「主なリスクと費用」および「留意事項」を必ずお読み下さい。

主なリスクと費用

下記の事項は、この投資信託（以下、「当ファンド」という。）をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。
お申し込みの際には、下記の事項および投資信託説明書（交付目論見書）の内容をよくお読みください。

■ 当ファンドに係るリスクについて

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて実質的に株式、公社債およびREITなど値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、投資者（受益者）の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。
ファンドの運用による損益は、すべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。
投資信託は、預貯金と異なります。
当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「株価変動リスク」、「REIT（リート）の価格変動リスク」、「金利変動リスク」、「為替変動リスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」、などがあります。
※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

■ 当ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用	
購入時手数料	購入申込日の翌営業日の基準価額に、販売会社が個別に定める手数料率を乗じた額です。 ご購入時の手数料の上限は1.10%（税抜1.00%）です。
信託財産留保額	ありません。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用（信託報酬）	毎日、純資産総額に年0.935%（税抜0.85%）を乗じた額を計上します。 毎計算期間の最初の6ヵ月終了日及び毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。
その他の費用・手数料	以下のその他費用・手数料については、信託財産中から支払われます。 ・監査法人等に支払うファンドの財務諸表の監査に要する費用 ・有価証券売買時の売買委託手数料 ・先物取引・オプション取引等に要する費用 ・資産を外国で保管する場合の費用　　等 監査費用は毎日計上し、毎計算期間末または信託終了のとき、その他の費用等はその都度信託財産中から支払われます。 ※定期的に見直されるものや運用状況等により変動するものがあるため、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※ファンドの費用の合計額は、投資者の皆様がファンドを保有する期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

留意事項

■ 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社（以下、「当社」といいます。）が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
■ 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見通しにつきましても、その確実性を保証するものではございません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。
■ 当ファンドは、株式、公社債およびREITなど値動きの生じる証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくことになります。
■ 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金（貯金）保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。
■ ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。

■「主なリスクと費用」および「留意事項」を必ずお読み下さい。

指数について

日本株式

- 「日経平均株価（日経225）」および「日経平均トータルリターン・インデックス（日経225（配当込み））」（以下「各指数」）は、株式会社日本経済新聞社によって独自に開発された手法によって、算出される著作物であり、株式会社日本経済新聞社は、各指数自体及び各指数を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。
- 「日経」及び各指数を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、全て株式会社日本経済新聞社に帰属しています。
- 本件投資信託は、投資信託委託業者等の責任のもとで運用されるものであり、株式会社日本経済新聞社は、その運用及び本件受益権の取引に関して、一切の責任を負いません。
- 株式会社日本経済新聞社は、各指数を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延又は中断に関して、責任を負いません。
- 株式会社日本経済新聞社は、各指数の構成銘柄、計算方法、その他各指数の内容を変える権利及び公表を停止する権利を有しています。

日本REIT

- 東証REIT指数の指数値及び同指数に係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウ及び同指数に係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。
- JPXは、同指数の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。
- 本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

日本債券

- 「NOMURA-BPI総合、国債」は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産権は同社に帰属します。なお、同社は、対象インデックスを用いて行われる事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

米国株式・米国REIT

- S&P500®（以下「S&P500指数」といいます。）、S&P米国REIT（以下「S&P米国REIT指数」といいます。）はS&P Dow Jones Indices LLC（以下「SPDJI」といいます。）の商品であり、これを利用するライセンスが農林中金全共連アセットマネジメント株式会社に付与されています。
- Standard & Poor's®およびS&P®はStandard & Poor's Financial Services LLC（以下「S&P」といいます。）の登録商標です。また、Dow Jones®はDow Jones Trademark Holdings LLC（以下「Dow Jones」といいます。）の登録商標です。これらの商標を利用するライセンスがSPDJIに、特定目的での利用を許諾するサブライセンスが農林中金全共連アセットマネジメント株式会社にそれぞれ付与されています。
- 当ファンドは、SPDJI、Dow Jones、S&Pまたはそれぞれの関連会社によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではなく、これら関係者のいずれも、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、S&P500指数、S&P米国REIT指数の誤り、欠落、または中断に対して一切の責任も負いません。

米国債券

- 「FTSE米国国債インデックス」はFTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

農林中金＜パートナーズ＞日米6資産分散ファンド

（安定運用コース）（為替ヘッジあり）/【愛称：コア6 エバー為替ヘッジあり】、（資産形成コース）（為替ヘッジあり）/【愛称：コア6 シード為替ヘッジあり】
（安定運用コース）（為替ヘッジなし）/【愛称：コア6 エバー為替ヘッジなし】、（資産形成コース）（為替ヘッジなし）/【愛称：コア6 シード為替ヘッジなし】

販売用資料

追加型投信／内外／資産複合

取扱い販売会社情報一覧表

※販売会社は今後変更となる場合、また、下記以外にもお取り扱いを行っている販売会社がある場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申し込みを停止している場合もあります。
詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

商号	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	備考
JAバンク（JA/信連/農林中金）	お取り扱いについては、委託会社（農林中金全共連アセットマネジメント株式会社）までお問い合わせください。 （注）一部のJAバンクでは、お取り扱いがない場合がございます。					

販売会社等につきましては、以下の照会先までお問い合わせください。
■農林中金全共連アセットマネジメント株式会社
ホームページ：https://www.ja-asset.co.jp/
フリーダイヤル：0120-439-244（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

お申し込み、投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は販売会社へお申し出ください。